



毎年激戦となる剣舞(右)と詩舞(左)青年の部の表彰式。計23人中7人がスーパーチームメンバー(吟詠含む)だった

日本財団助成事業

令和五年度全国剣詩舞コンクール決勝大会 令和五年度全国吟詠コンクール決勝大会

残暑のなか 東京と大阪で激闘

長らく笹川記念会館で開催されてきた全国吟詠および剣詩舞コンクール決勝大会ですが、昨年東京都内の別会場で開催。今年は吟詠の翌週に、はじめて大阪にて剣詩舞が開催されました。吟詠では昨年不参加となった近畿勢が出場して上位に進出。剣詩舞では毎年激戦が繰り広げられる剣舞・詩舞青年の部で今年も激しい上位争いが展開され、残暑厳しいなか、ともに会場を沸かせる決勝大会にふさわしいコンクールとなりました。



日時：〔吟詠〕令和5年9月18日(月・祝)

〔剣詩舞〕令和5年9月24日(日)

場所：〔吟詠〕日本教育会館・一ツ橋ホール

〔剣詩舞〕門真市民会館ルミエールホール大ホール

主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会



剣舞少年の部優勝の永田菜桜さん(写真上)と吟詠青年の部優勝の東瑞さん(写真左)。それぞれ令和元年度に幼年、少年の部で優勝しており、二冠達成

令和五年度全国剣詩舞コンクール決勝大会

これまで吟詠とともに東京で全国コンクールを開催してきた剣詩舞ですが、今回ははじめて近畿地区に移動。大阪府門真市の門真市民会館ルミエールホール大ホールで覇を競うことになりました。客席1100を超える大ホールです。

中部と近畿に剣詩舞の強豪流派がひしめく現状に照らしたすえの決断ですが、今年度は入賞者全52人中、中部地区が24人、近畿地区が15人

と、両地区でじつに75%を占め、その強さを証明しました。

剣詩舞スーパーチームメンバーがそろった青年の部は今年も激戦。剣舞では昨年、五月女智仁さんに僅差で敗れた上岡隆生さんが、やはり何度も上位入賞を果たしている友井川友さんと同じ演題の「塞下の曲 其二」で真つ向勝負。特別審査委員の内田寿子さんが「迷いに迷った」と言うすえに、上岡さんに凱歌が上がりま

した。

詩舞では剣舞青年で優勝しているスーパーチームメンバー(吟詠を含む)5人が出場。入倉兄弟の兄である真之将さんが優勝し、五月女智仁さんに続いてスーパーチームメンバーでの二冠達成を果たしました。

また一般一部では剣舞、詩舞ともに愛知県勢がベスト3を独占。日本壮心流と天辰神容流両派を中心とした強さを発揮しました。

全国剣詩舞コンクール決勝大会結果

【剣舞】幼年の部			【詩舞】幼年の部		
優勝	齊藤柚璃	(兵庫)	優勝	鈴木嗣人	(愛知)
2位	小野愛琉真	(栃木)	2位	村田稀星	(東京)
3位	埴嘉門	(愛知)	3位	畑本彩希	(岡山)

【剣舞】少年の部			【詩舞】少年の部		
優勝	永田菜桜	(愛知)	優勝	建部有咲	(愛知)
2位	多田啓良	(大阪)	2位	堀真大朗	(愛知)
3位	木下衣鶴	(愛知)	3位	片山心結	(岡山)
4位	山田明穂	(大分)	4位	畑本彩結	(岡山)
5位	戸田宙希	(滋賀)	5位	植原李香	(京都)

【剣舞】青年の部			【詩舞】青年の部		
優勝	上岡隆生	(三重)	優勝	入倉真之将	(愛知)
2位	友井川友	(兵庫)	2位	原光希	(兵庫)
3位	石川姫麗	(愛知)	3位	入倉慶志郎	(東京)
4位	杉浦きよ乃	(愛知)	4位	柴田讓	(愛知)
5位	三木優佳	(兵庫)	5位	花田真理	(愛知)

【剣舞】一般一部			【詩舞】一般一部		
優勝	坪田里美	(愛知)	優勝	奥谷晶子	(愛媛)
2位	松本全伸	(愛知)	2位	永井聡多	(愛知)
3位	中田加奈子	(愛知)	3位	伊藤修司	(愛知)
4位	大津知紀	(兵庫)	4位	小嶋和美	(京都)
5位	藤島永治	(岡山)	5位	松本文	(兵庫)

【剣舞】一般二部			【詩舞】一般二部		
優勝	建部司	(愛知)	優勝	鈴木一人	(茨城)
2位	西原香	(兵庫)	2位	入倉仁美	(愛知)
3位	小倉典子	(三重)	3位	友井川泰子	(兵庫)
4位	藤原さつき	(栃木)	4位	松山知子	(岡山)
5位	濱岡真澄	(京都)	5位	足田澄子	(京都)

【剣舞】一般三部			【詩舞】一般三部		
優勝	竹内久恵	(愛知)	優勝	鈴木文枝	(愛知)
2位	西村美輪	(高知)	2位	安井美智子	(岡山)
3位	加藤登規	(兵庫)	3位	山田幸子	(愛媛)

Family 家族で優勝、入賞!

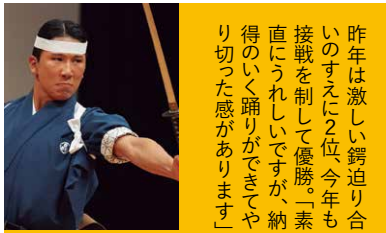
入倉兄弟:詩舞青年で兄優勝、弟3位

日本壮心流の宗家ファミリーである入倉真之将(左)、慶志郎(右)兄弟。剣舞青年では弟が平成26年に優勝、兄は令和元年に優勝したが、詩舞では兄が先に栄冠をおさめた。弟は令和元年に詩舞4位になって以来4年ぶりの出場。真ん中は慶志郎さんの娘で入倉昭星宗家の初孫となる史織ちゃん、すでに初舞台経験済み。

建部父娘:娘初優勝、父三冠達成

建部ファミリーの三人姉妹は次女が群舞コンクールで優勝経験があるものの、個人での優勝は三女の有咲さん(右)が初めて。「幼年の部は準優勝だったのでとてもうれしい」と言いつつ、「次はパパの番」とお父さんにハッパ。それに応えて司さん(左)が一般二部で優勝、見事三冠を達成した。司さんは群舞の剣舞、詩舞と合わせる」と五冠。

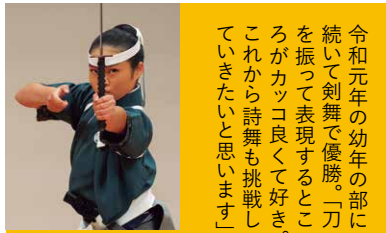
幼年・少年・青年の部優勝者の横顔



昨年は激しい鏢迫り合いのすえに2位。今年も接戦を制して優勝。「素直にうれいですが、納得のいく踊りができてやっ切った感があります」

剣舞青年の部 優勝

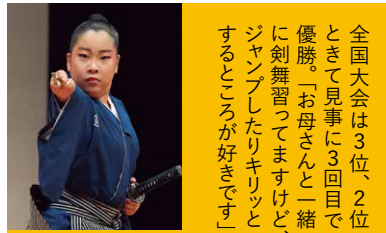
上岡隆生さん(三重)
演題「塞下の曲 其の一」



令和元年の幼年の部に続いて剣舞で優勝。「刀を振って表現するところがカッコよくて好き。これから詩舞も挑戦していきたいと思います」

剣舞少年の部 優勝

永田菜桜さん(愛知)
演題「豪勇義経」



全国大会は3位、2位ときて見事に3回目で優勝。「お母さんと一緒に剣舞習ってますけど、ジャンプしたりキリッとすることが好きです」

剣舞幼年の部 優勝

齊藤柚璃さん(兵庫)
演題「出郷の作」



令和元年に剣舞青年で優勝して二冠達成。「詩舞青年は激戦区なので優勝できてびっくりするのと同時に、努力が報われる」としています」

詩舞青年の部 優勝

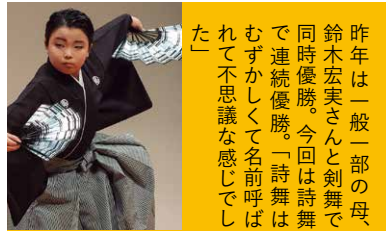
入倉真之将さん(愛知)
演題「辞世」



発表で名前を呼ばれて号泣。「幼年で準優勝して全国2回目ですけど、今までの想いが全部詰まってきたと思う泣いてしまいました(笑)」

詩舞少年の部 優勝

建部有咲さん(愛知)
演題「九段の桜」

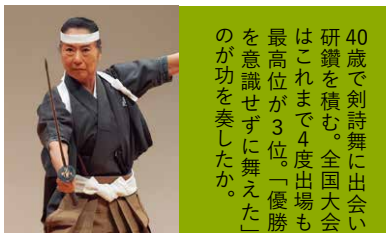


昨年は一般一部の母、鈴木宏実さんと剣舞で同時優勝。今回は詩舞で連続優勝。「詩舞はむずかしくて名前呼ばれて不思議な感じでした」

詩舞幼年の部 優勝

鈴木嗣人さん(愛知)
演題「九段の桜」

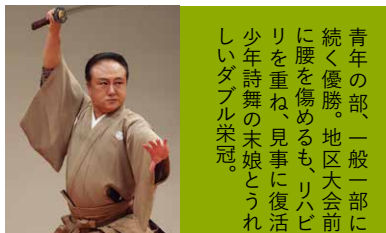
一般一部・二部・三部優勝者の横顔



40歳で剣詩舞に出会い、研鑽を積む。全国大会はこれまで4度出場も最高位が3位。「優勝を意識せずに舞えた」のが功を奏したか。

剣舞一般三部 優勝

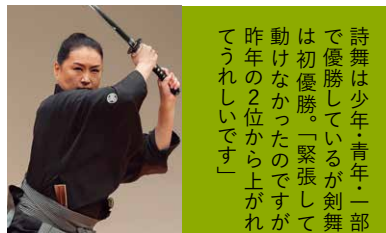
竹内久恵さん(愛知)
演題「絶命の詞」



青年の部、一般一部に続く優勝。地区大会前に腰を傷めるも、リハビリを重ね、見事に復活。少年詩舞の末娘とうれしいダブル栄冠。

剣舞一般二部 優勝

建部司さん(愛知)
演題「馬上偶成」



詩舞は少年・青年一部で優勝しているが剣舞は初優勝。緊張して動けなかったのですが、昨年の2位から上がられてうれしいです」

剣舞一般一部 優勝

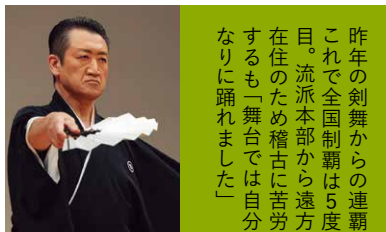
坪田里美さん(愛知)
演題「絶命の詞」



昨年の剣舞に続く優勝で、これにより一般の部をコンプリート。個人戦は卒業ながら「まだ舞っていたいので次は群舞に挑戦したい」

詩舞一般三部 優勝

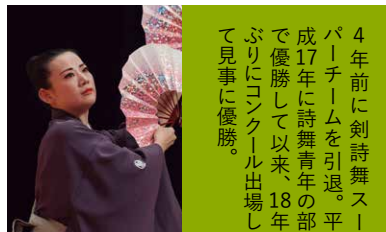
鈴木文枝さん(愛知)
演題「辞世」



昨年の剣舞からの連覇。これで全国制覇は5度目。流派本部から遠方在住のため稽古に苦労するも「舞台では自分なりに踊れました」

詩舞一般二部 優勝

鈴木一人さん(茨城)
演題「辞世」



4年前に剣詩舞スーパーチームを引退。平成17年に詩舞青年の部で優勝して以来、18年ぶりにコンクール出場して見事に優勝。

詩舞一般一部 優勝

奥谷晶子さん(愛媛)
演題「芳野」



吟詠専門委員を中心とした審査委員の先生方。じつに正味6時間半にわたって審査を行った

全国吟詠コンクール決勝大会結果

<p>一般一部</p> <p>優勝 荒崎春奈 (神奈川)</p> <p>2位 井戸隆裕 (大阪)</p> <p>3位 根岸明香 (大阪)</p> <p>4位 徳安秀作 (福岡)</p> <p>5位 吉澤純子 (東京)</p> <p>6位 阿部香織 (東京)</p> <p>7位 中澤 宏 (茨城)</p> <p>8位 白神信子 (岡山)</p>	<p>幼年の部</p> <p>優勝 綿谷奏音 (三重)</p> <p>2位 阿部楓生 (東京)</p> <p>3位 川村彩乃 (大分)</p> <p>4位 高橋拓来 (京都)</p> <p>5位 小野愛琉真 (栃木)</p>
<p>一般二部</p> <p>優勝 伊藤利博 (愛知)</p> <p>2位 西京子 (福島)</p> <p>3位 春藤薫於里 (大分)</p> <p>4位 山村幸子 (大阪)</p> <p>5位 岡田洋子 (富山)</p> <p>6位 岩江 実 (岡山)</p> <p>7位 佐野誠樹 (兵庫)</p> <p>8位 井川良得 (茨城)</p> <p>9位 池田久志 (大阪)</p>	<p>少年の部</p> <p>優勝 林一希 (大阪)</p> <p>2位 竹川心彩 (愛知)</p> <p>3位 前田紗那 (広島)</p> <p>4位 辻唯那 (岐阜)</p> <p>5位 平根愛華 (熊本)</p>
<p>一般三部</p> <p>優勝 草薙賢三 (香川)</p> <p>2位 桐山みや子 (大阪)</p> <p>3位 原口保行 (佐賀)</p> <p>4位 長谷川ひさよ (愛知)</p> <p>5位 新谷清美 (福井)</p> <p>6位 松村一正 (東京)</p> <p>7位 中野澄子 (広島)</p> <p>8位 石川雅健 (香川)</p> <p>9位 渡辺良夫 (岐阜)</p> <p>10位 相馬 武 (山形)</p>	<p>青年の部</p> <p>優勝 東 瑞 (大阪)</p> <p>2位 原光希 (兵庫)</p> <p>3位 大野統也 (愛知)</p> <p>4位 藤吉瑞季 (大分)</p> <p>5位 宮本七菜子 (大分)</p> <p>6位 北下祥子 (兵庫)</p> <p>7位 相澤侑我 (神奈川)</p>

審査委員講評



徳田寿風 審査委員長

「これまで専門審査だった(調和)を今回から一般審査の採点項目としました。すべての部門でレベルが年々高くなって、全国決勝コンクールにふさわしい内容となりました。〈発声〉の声質については男女とも高音域を望む傾向がありますが、無理が生じないようにすべきです。技術では母音の発音でウがユに聞こえるようなことがあるので注意が必要です。〈詩心〉については、内容を理解してそれを表現する技術が大切。やはり素読をすることが一番かなと思います。〈態度〉は全般的に良かったです。〈調和〉については音程の安定度が大切なのでピブラートは慎んでください。専門審査の〈発音〉ですが、鼻濁音にしなくても良いところをしてしまう例が見られたとのこと。2分間のドラマをご自分でプロデュースする力を身につけてほしいと思います」

在、少壮吟士準備候補として活動していますが、一般一部には2位の井戸隆裕さんなど準備候補が7人出場、少壮吟士を目指す吟詠家の激しい戦いが繰り広げられました。また一般三部では昨年度の中村利江子さんに続き、徳田寿風審査委員長の教え子である草薙賢三さんが優勝。出場予定の合吟コンクールも楽しみになりました。



河野正明 特別審査委員

「年々男性のエントリーが少なくなってきて、少壮吟士も少ないのですが、今回は男性の入賞者が多く、優勝も6人中4人が男性でした。男性がコンクールにもどんどん出てきてくれると、先行きも明るいのではないかと思います」

幼年・少年・青年の部優勝者の横顔

*名前が赤字は高松宮妃記念杯



4年前に少年の部で優勝、青年の部初出場にて二冠達成。「みんなに感謝したい」としながらも「今日の出来は65点」と厳しい評価。

吟詠青年の部 優勝

東 瑞さん(大阪)
吟題「舟中子規を聞く」



「祖母と母が詩吟していて4歳から始めました」という中学3年生。変声期で本数が8本から水2本になりましたが、優勝を果たした。

吟詠少年の部 優勝

林 一希さん(大阪)
吟題「偶成」



前回2位、「次回は必ず優勝」と誓って有言実行。名前呼ばれてすぐくうれしかったけど、(前回優勝の)ママは少し泣いてました(笑)。

吟詠幼年の部 優勝

綿谷奏音さん(三重)
吟題「弘道館に梅花を賞す」

一般一部・二部・三部優勝者の横顔



「入賞できればくらいは気持ちで挑戦。まさかの一位に涙が出ました」と無欲の勝利。今後は心置きなく後進の指導に注力とのこと。

吟詠一般三部 優勝

草薙賢三さん(香川)
吟題「絶命の詞」



全国大会初挑戦で戴冠。「夏季吟道大学での研修の成果もあるのか、ドキドキせず平常心で臨めたことが奏功したのかも知れません」。

吟詠一般二部 優勝

伊藤利博さん(愛知)
吟題「春夜洛城に笛を聞く」



少年青年で優勝しながら一部では一昨年、昨年度とも3位。コンクールがあることだけでもうれしい。二人の子供とともに詩舞でも活躍。

吟詠一般一部 優勝

荒崎春奈さん(神奈川)
吟題「絶句(両箇の黄鸝)」

一般一部優勝の荒崎春奈さんの長女・森内爽月さんも少年の部に出場



今年2月の全国剣詩舞群舞コンクールに出場した時の(右端から)荒崎春奈さんと森内爽月さん母娘。その隣は春奈さんのお姉さんの有紀江さん。今回吟詠一般一部で優勝した荒崎春奈さんは、令和三年度では3位。その時に優勝したのが姉である荒崎有紀江さん。「姉に続いて2位になれば良かったんですけどもう少し頑張らねばと。でも3位になれたことが力になったと思います」とのこと。じつはその時に幼年の部で長男の森内爽介さんも出吟(春奈さんは旧姓で出場)。そして今年は長女の森内爽月さんも少年の部で出場。「群舞で同じ舞台に立ったことはあるんですけど、一緒に出られるのは本当にうれしいです」と喜びを語った。

幼年の部で優勝した綿谷奏音さんのお母さんは昨年一般一部優勝の未由子さん

今回幼年の部優勝の綿谷奏音さんは、昨年度は全国コンクール初出場で2位。「楽しかったけど悔しくて、絶対リベンジしたい」と語っていたが、見事にその想いを貫いた。昨年度はお母さんの未由子さんが一般一部で優勝、今年の少壮コンクールでは初出場で入選を果たした。幼年・少年・青年・一部と4部門で優勝しているだけに、奏音さんは「ママみたいな上手な吟詠家になって活躍したいです」と将来の夢を語った。



昨年度に一般一部で優勝した未由子さんと(写真右)。幼年の部のトロフィーのリボンには平成三年度優勝の後藤(旧姓)未由子さん、弟で平成十一年度優勝の後藤啓佑さん、そして綿谷奏音さんの名前が書かれている(写真左)。

“ 聖地 ” 笹川記念会館を離れて

今年の開会の挨拶で沼崎富会長が「吟剣詩舞界の甲子園的な存在」と紹介した笹川記念会館国際ホール。昭和50年に竣工されて以来、全国コンクールや少壮コンクールといった財団主催の主要大会の舞台となり、まさに聖地でした。しかし老朽化により建て替えとなり、今年3月の少壮コンクールが最後の開催に。今回は剣詩舞が東京都北区の赤羽会館・講堂、吟詠が東京都千代田区の日本教育会館・一ツ橋ホールと、分散開催となりました。来年度については吟詠は同じですが、剣詩舞は大阪府門真市の門真市民文化会館ルミエールホールで開催される予定です。



吟詠コンクール、幼年・少年・青年・一般一部の表彰式。来年も同じ会場で開催される



左: 剣詩舞会場、東京都北区の赤羽会館・講堂
右: 吟詠会場、東京都千代田区の日本教育会館・一ツ橋ホール



牛島玲豊(左)、大森麗禎(右)新少壮吟士。期せずしてお揃いのような着物での授与式となった



沼崎富会長から少壮吟士認定証と賞状額を渡された2人。賞状額の質的な重さとともに、少壮吟士の責任の重さも痛感する瞬間

牛島玲豊(福岡) 豊晃吟道会

「7月の吟道大学も緊張しましたが、8月の少壮吟士候補特別研修会はまた別次元で。本当に不安が心の中で大半を占めていました。今日もちろん緊張しましたがこれが本当に新しいスタートとして、先輩方を見習って課題に向き合いながら、精一杯頑張りたいと思います」

大森麗禎(愛媛) 清吟堂吟友会

「入賞してから半年経ちますが、実感がなくてずっとふわふわした感じでした。それが今日重い賞状をいただいて、本当に少壮吟士になったんだと改めて思いました。コンクールがコロナ禍で中止になるなど目標を失いかけたこともありましたが、私にとって貴重な期間だったと思います」

吟詠コンクールの昼食休憩の間、新少壮吟士に対する認定証授与式が行われました。これまでは全国吟剣詩舞道大会にて実施されましたが、今年は春に開催されたために代替処置となりました。少壮吟士は全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会(少壮コンクール)で3回入選を果たし、少壮吟士候補特別研修を無事終了してはじめて認定。その荣誉を称えるとともに心技合わせての今後の精進を期待して認定証が授与されます。今年も牛島玲豊さんと大森麗禎さんの2人が少壮吟士に認定、沼崎富会長より賞状額と記念品が贈られました。

新少壮吟士 認定証授与

日本財団助成事業 令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会 初初の群舞コンクール

これまで東京にて隔年開催されてきた全国剣詩舞群舞コンクール。

笹川記念会館が改修中ということもあり、今回初めて中部地区連絡協議会が主管、愛知県の東海市芸術劇場大ホールで開催されました。

前回はコロナ禍のために46組のエントリー中20組が辞退しましたが、今回辞退は1組のみ。

また演舞後の講評にて早淵鯉将総合審査委員長より、

次回から詩舞の出場人数が3〜5人の選択制となり、

優勝者の再挑戦も可能になることが発表されました。

日時：令和6年2月11日(日)
場所：愛知県・東海市芸術劇場大ホール
主催：公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会



名鉄名古屋駅から特急で約15分、太田川駅に隣接した「東海市芸術劇場」。商業施設「ユウナル東海」内に平成27年にオープン、大ホールは固定席1025席で、舞台は非常に広い



剣舞優勝の青柳流剣詩舞道チーム(兵庫)。左から松本文、友井川友、宮富士子各メンバー。前々回の2位(前回辞退)から雪辱を果たした

側転などのパフォーマンスは得点にならないものの、腰を落とした気迫の演舞により、早淵鯉将総合審査委員長に「審査委員一同感動しました!特別賞はありませんが次回もぜひ出場していただきたい」と言わせた群馬県の小野愛疏真、陽葵、咲燈三兄弟

詩舞優勝の日本壮心流剣詩舞道チーム(愛知)。左から堀由起子、三浦正暮、入倉真之将、堀真悠子、堀真大朗各メンバー。群舞の詩舞は全員初出場



剣舞の部優勝

兵庫 青柳流剣詩舞道 演題 『大楠公』
だいなんこう



大楠公(友井川友さん)が小楠公(松本文さん)に短刀を授ける「桜井の別れ」の名場面。「一番の見せ所なので何度も稽古を繰り返しました」(友井川さん)とのこと

優勝	兵庫	青柳流剣詩舞道	友井川 友	菅 富士子	松本 文
2位	愛知	天辰神容流吟剣詩舞道	杉浦きよ乃	柴田 和都	佐々木悠介
3位	栃木	神刀無念凱山流	五月女益美	根岸 友美	五月女智仁
4位	兵庫	青柳流剣詩舞道	原 光希	原 光世	友井川 慈
5位	岡山	菊水流剣詩舞道	藤島 永治	犬飼 秀文	杭田 永遠

かつて詩舞優勝を果たした三姉妹の悲願達成

剣詩舞の強豪流派は中部地区に多く、そうした状況もふまえて今回の群舞コンクールは中部で開催

されることに。中部地区連絡協議会議長でもある入倉昭星審査委員は「やはり決勝大会は首都東京でやるほうが盛り上がると思います。名古屋からも近い立派な会場で皆に良かったと言ってもらった

ので、ほっとしました」とのこと。

日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長がそうした経緯を挨拶で説明した後、剣舞の演舞が開始。指定吟題は西南戦争の激闘を描いた『吉次峠の戦い』、薩長同盟を推進して幕末を駆け抜けた『坂本竜馬』、後醍醐天皇の忠臣・楠木正成の事績を讃えた『大楠公』の三題。すべて日本の歴史を描いた詩で、剣舞にふさわしい題材です。

最初に登場したのは前々回3位、前回2位で優勝候補の天辰神容流チーム。杉浦きよ乃さんが竜

馬に扮し、弟の柴田和都さんが中岡慎太郎に扮した暗殺シーンがハイライト。『坂本竜馬』を選んだチームは、間奏で暗殺を取り上げることが多く、ここで刺客役を入れる、入れないなど各流派趣向を凝らした振付がなされました。『大楠公』では優勝した青柳流チームなど「桜井の別れ」を重視するチームが多く、『吉次峠の戦い』では鉄砲を撃つシーンも入れるなど、それぞれ特徴ある振りがなされて観客を楽しませました。

「以前とは大楠公と小楠公の役が逆になりました」

友井川友「やっと優勝できたという喜びでいっぱいです。以前同じ演題を行った時は自分は小さかったので小楠公になり、松本さんが大楠公だったのですが、今回は逆になったので感情表現も意識しました。個人の剣舞もあと一歩で優勝できていないので、悩みながらやっていきますが頑張ります」
菅富士子「この3人で5、6回目くらいのトライでようやく優勝でき、ほっとしています。今何をしているのか伝わるような舞、感情表現を心がけてきました。自分が何かしでかさないように気をつけていたので、良かったです(笑)」
松本文「感無量です。100%ではないけど舞台でいいものを見せられたかなと。群舞の詩舞では平成十一年度に田辺三姉妹(&原優子、小野藍子さん)で優勝させていただきました。その後三姉妹で剣舞にも出たのですが次女の小泉が他界してしまい…。かわって従兄弟(友井川友さん)が入ったのですが、これで墓前にも報告ができます」

2位 愛知 天辰神容流吟剣詩舞道 演題 『坂本竜馬』

竜馬暗殺のシーン。「トップバッターで緊張した」という竜馬に扮した杉浦きよ乃さん(中央)。柴田和都さん(右)は中岡慎太郎、佐々木悠介さんは手紙を読む役どころ



3位 栃木 神刀無念凱山流 演題 『坂本竜馬』

個人では(青年の部)剣舞・詩舞とも優勝している五月女智仁さん(中央)が竜馬役。前回と同じ3位、母の益美さん(左)は「途中のお芝居がむずかしかった」とのこと



激しい剣さばきを見せる青柳流剣詩舞道チーム。男性の友井川友さん(中央)が大楠公となり、菅富士子さん(右)と松本文さん(左)の田辺(旧姓)姉妹が支えた。平成十一年度には今は亡き次女の小泉さんを含めた田辺三姉妹で詩舞優勝を遂げている

詩舞の部優勝

愛知 日本壮心流剣詩舞道

演題 『銭塘懐古次韻』

剣舞優勝者3人を揃えて
戦いの場面も表現

剣舞終了後、昼食休憩をはさんで詩舞のコンクール。指定吟題は盛唐の詩人、崔顥が武漢の伝説の高殿に登った時の様子を詠った『黄鹤楼』、水戸藩主の徳川斉昭(景山)が藩内の絶景地八カ所を選んで讚えた『水戸八景』、土佐の禅僧・釈絶海が南宋の盛衰を回顧した『銭塘懐古次韻』の三題。

2番目に登場した紫虹流(神奈川県)の女性5人は、2対3、1対4、1対3対1など次々とフォーメーションを変えて『水戸八景』の景観を表現。次の天明流は男子2人、女子3人の組み合わせで、きつちりと揃い振りをを行うという展開。対照的と思える舞が舞台いっぱい



楽器を奏でる華やかな南宋の文明が戦いで滅びていく様を、入倉昭星宗家がストーリー性を持った振付で見事に表現

です。

剣舞に比べると激しい舞が少なく、抽象的になることも多い詩舞の群舞ですが、日本壮心流の5人は剣舞の得意なメンバーを揃えただけに、剣舞的な戦いのシーンもそれが功を奏したか、5人とも群舞コンクールでは初めて詩舞に挑

「華やかさと戦いのシーンのメリハリを意識しました」

入倉真之将「集中してお稽古しましたが、みんなで話し合っという雰囲気にして進めていかなどきちんと詰めていけたのが良かったです。群舞はどれだけ呼吸を合わせられるかが大事だと思います。現在本部道場の館長をやらせていただいておりますが、これからみんなの指導に力を注いで一緒に力を合わせて頑張りたいです」

堀由起子「群舞の剣舞では前々回宗家代行と娘(真悠子さん)とで優勝していますが、詩舞は初めてで優勝できてほっとしています。限られた時間で意識をすり合わせられたことが良かったと思います。個人のほうでも頑張りたいです」

三浦正碁「宗家に出てみないかと声をかけていただいて、全国は個人も含めて初出場だったのですが、ミスなくできて良かったです。詩舞と言っても戦いのシーンもあるので、メリハリをつけて踊ることを意識しました」

堀真悠子「個人も群舞も剣舞・詩舞とも優勝できてほんとうにうれしいです。最初の出のイメージをどうするか相談して、気持ちをもひとつにしてできました。これから少しお休みして大学受験に専念したいです」

堀真大朗「群舞は初めて出て、それも詩舞だったのでめちゃくちゃドキドキしました。自分が一番前になるシーンでもみんなが合わせてくれてありがたいです」

戦ったものの見事に優勝の栄冠に輝きました。

結果発表前の講評では、早淵鯉将総合審査委員長が「詩舞で5人集まるのが厳しいという意見も多く、次回から3〜5人の間で選択

できるようにします。また優勝者は剣舞と詩舞の3〜4人では1人、5人では2人が2大会経過後に出場できることとします」と発表。久しぶりのルール変更にも会場がわきました。



2位

三重 天明流
剣詩舞道治眺館
演題 『銭塘懐古次韻』
平成二十九年度に剣舞で優勝した上岡兄弟を中心にしたメンバーで、前々回、前回とも2位。練習量を感じさせるキレのある揃い振りを見せたが、またも2位となった



3位

愛知 天辰神容流
吟剣詩舞道
演題 『黄鶴楼』
すでに詩舞で優勝している次女を除いた建部姉妹を中心に、二枚扇子など天辰神容流らしい華やかな舞を展開。「鶴になりきって踊りました」(建部光咲さん)と3位

優勝	愛知	日本壮心流剣詩舞道	入倉真之将	堀 由起子	三浦 正碁	堀 真悠子	堀 真大朗
2位	三重	天明流剣詩舞道治眺館	上岡 雅治	上岡 隆生	上岡 智音	小倉 萌	加藤 凜
3位	愛知	天辰神容流吟剣詩舞道	建部 光咲	大日方七海	柴本佳乃愛	建部 有咲	中川 望美
4位	静岡	日本壮心流剣詩舞道浜名剣詩舞会	渡邊 祐子	渡邊 史	神田 理帆	山下 満香	神田 芽依
5位	京都	神心流尚道館総本部	岩田 侑希	長澤 美咲	塩田 由実	塩見 規子	相星 史子

「南宋の優雅な文明を表現するところと、戦の末に滅んでしまったという戦いの場面の両方を現すようにしました」と言うリーダーの入倉真之将さん(中央)。掘親子に新鋭の三浦正碁さんという剣舞を得意とするメンバーが、メリハリある演舞でそれを実現した





記念すべき第一回全国少壮吟詠家選考審査会にて入選した6人。手前左から太田武志、徳安秀作、荒崎春奈、平野千草、郡司明子、綿谷未由子各少壮吟士準候補。中央奥は日本吟剣詩舞振興会沼崎富会長



沼崎富会長、徳田寿風審査委員長をはじめとした審査委員。終了後に入選を逃した12人に対して徳田審査委員長が個別に講評を実施。「非常に参考になってありがたかった」と好評であった



3回目の入選を果たして入選の賞状を持ち、晴れて少壮吟士候補となった郡司明子さん(左)と平野千草さん(右)。特別審査で2回落選している平野さんは年齢制限ぎりぎりです。3回入選を果たした

令和五年度全国少壮吟詠家選考審査会
審査会実施要項 (抜粋)



- (ロ) 一般審査において、同準候補は課題曲十五題の中から抽選で選択した一題(以下「抽選曲」)と、自ら選ぶ曲一題(以下「選択曲」)の計二題を吟じる。
- (ハ) 出吟順は、厳正公平な抽選で決定した決戦大会プログラム順の順番どおりに行い、まず抽選曲を一巡した後、選択曲を同じ順番で一巡する。
- (ヘ) 抽選曲が選択曲と同一のものであった場合は、あらかじめ財団に届け出た第二候補の絶句一題を選択曲とする。

日本財団助成事業

「第一回全国少壮吟詠家選考審査会」審査会開催

初の審査会にて

2人の少壮吟士候補が誕生

日時：令和6年3月10日(日)
場所：東京都中野区・梅若能楽学院会館
主催：(公財)日本吟剣詩舞振興会

吟界最高峰の少壮吟士を選ぶ大会として、「少壮コンクール」の名で親しまれてきた「全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会」。しかし出場者の数が年々減少して地方予選が開催できず、レベルダウンも指摘されたことから、昨年3月の第50回大会を最後にその幕を閉じました。かわって全国吟詠コンクール上位入賞者などを対象に「全国少壮吟詠家選考審査会」が行われることになり、昨年6月の選考会、8月の研修会を経て、このほど最終の審査会を開催。6人が入選して、うち3回入選を果たした2人が晴れて少壮吟士候補に選出されました。

「全国少壮吟詠家選考審査会」 審査会出吟順 (太字の名前は入選者)

名前	入選回数	所属 総連盟	流派	抽選曲	選択曲
1 桶谷麻美	1	富山	日本詩吟学院 富山桜吟会	「春流」	「獄中の作」
2 綿谷未由子	1	三重	吟道関心流	「芳野懐古」	「早に白帝城を発す」
3 吉田あゆみ	1	大分	淡窓伝光霊流日本詩道会	「逸題」	「菊花」
4 荒崎有紀江	1	神奈川	紫虹流吟剣詩舞会	「竹里館」	「両英雄」
5 林田麻由	1	大分	淡窓伝光霊流日本詩道会	「稻叢懐古」	「西南の役陣中の作」
6 吉澤純子	1	東京	契秀流吟詠会	「積中の作」	「絶句」(杜甫)
7 七五三聖子	0	兵庫	吟道撰楠流総本部	「春行して興を寄す」	「立山を望む」
8 郡司明子	2	群馬	岳精流日本吟院	「清明」	「静夜思」
9 井戸隆裕	1	大阪	詩道楠心吟詠会	「獄中の作」	「従軍行」(王昌齡)
10 梅田めぐみ	0	大分	淡窓伝光霊流日本詩道会	「中庸」	「稻叢懐古」
11 阿部香織	1	東京	日本詩吟学院 岳智会	「長安主人の壁に題す」	「烏江亭に題す」
12 平野千草	2	佐賀	吟道佐賀松風会	「静夜思」	「中庸」
13 荒崎春奈	0	神奈川	紫虹流吟剣詩舞会	「夜受降城に上って笛を聞く」	「清明」
14 甫守美和子	2	福岡	日本吟声流	「絵の島」	「静夜思」
15 中西光恵	1	兵庫	紫洲流日本明吟会	「両英雄」	「夜受降城に上って笛を聞く」
16 徳安秀作	0	福岡	関西吟詩文化協会緑扇会	「春行して興を寄す」	「中庸」
17 太田武志	0	千葉	日本修道道流吟詠会	「逸題」	「両英雄」
18 辻 寛子	1	神奈川	岳精流日本吟院	「清明」	「寒梅」



これまでの「少壮コンクール」同様、開会式前に課題曲十五題から全員で抽選。希望の選択曲を引き当てた人、苦手な曲が当たった人など悲喜こもごもの結果となった



財団主催大会では初開催の「梅若能楽学院会館」の能舞台。正面は審査委員のみ着席、観客は横から観るという特殊な環境だったが、「集中できた」と出場者には好評

50回の歴史に幕を閉じた「少壮コンクール」に代わり、令和5年度から実施されることになった「全国少壮吟詠家選考審査会」。

まず書類選考のうえ昨年6月3日に「選考会」を開催。少壮コンクール入選者、全国吟詠コンクール上位入選者（1〜5位）などの基準を満たし、面接と実技に合格した13人と、最後の少壮コンクール入選してシードとなった5人の計18人が少壮吟士候補となりました。そのうち3人が入選すれば少壮吟士候補となる3回入選挑戦者です。

18人は8月19日に開催された「研修会」に参加。吟詠コンクールの指定吟題十題と、「選考会」の課題曲十五題の中から好きな吟題を選んで実技。3人の吟詠専門委員から厳しい指導を受けました。

今回の「選考会」ではその時に選んだ吟題を選択曲とした人も多かったですが（前ページ「審査会実施要項」参照）、3回目挑戦者

の郡司明子さんと平野千草さんが、ともに選択曲とした『清明』と『静夜思』を抽選曲で引き当てます。

抽選曲では詩文を見ながら詠ってもよいことになっていますが（選択曲は詩文なし）、2人は選択曲同様に詩文を持たずに吟詠。二題目はそれぞれ第二候補の吟題を吟じました。

二題終わって6人の一般審査合格者が発表。2人は名前を呼ばれて特別審査に進むことに。しかしもう1人の3回入選挑戦者、甫守美和子さんは抽選曲の『絵の島』で絶句。残念ながら失格になってしまいました。

そして律詩の抽選を経て2人が特別審査に挑戦。とくに平野さんは過去2回律詩で失敗しているだけに会場は緊張に包まれましたが、ともに見事に詠い切り、その後の発表で2人の少壮吟士候補が誕生。競吟中は拍手・声援禁止だった観客も、大きな拍手で入選者を讃えました。

3回入選 少壮吟士候補者 喜びの声



吟道佐賀松風会
平野千草 (佐賀)
特別審査『九月十五夜』(菅原道真)

「年齢的にラストチャンスだったので感無量です。律詩で2回失敗しているのですが、一度目は気分的に舞い上がり、昨年の2回目は前日に体調を崩してしまい…。この1年間、半年は詠うこともできずに体調回復に努め、あとの半年にとにかく声を出して、やれるだけのことをやっていた場に臨みました。選択曲は希望曲の『静夜思』が当たり、「私に運の波が来ている」と思うようにしました(笑)。少壮吟士を出すのは一昨年亡くなった四代目会長の悲願でしたが、最後名前を呼ばれた時にそういういろんなことが走馬灯のように浮かんできて、思わず泣いてしまいました。これからは情景が浮かぶような吟心を心がけ、心地いと思ってもらえる少壮吟士になりたいです」



岳精流日本吟院
郡司明子 (群馬)
特別審査『帰省』(狄仁傑)

「本当にここまで長かったです。今までお世話になった方々に恩返しができると思うとともに、次のステージに向けて頑張らなくてはといういろんな気持ちが渦巻いている感じです。選択曲で当たった『清明』は希望曲にしていた吟題で、研修会でも先生方から多くのご指導をいただきましたが、それを反芻しながら舞台上に立ちました。能の舞台はすごく力をいただく場所で、空間に支えてもらったという印象が強いです。両親が詩吟をしていて物心ついた時には詠っていましたが、律詩の『帰省』は家のことを思い出しながら吟じることができました。これから先輩方にご指導いただきながら、自分なりにその詩の世界観を分かち合えるような少壮吟士を目指したいと思います」



2回入選

吟道関心流
綿谷未由子 (三重)



吟道関心流
太田武志 (千葉)



関西吟詩文化協会緑扇会
徳安秀作 (福岡)



1回入選

紫虹流吟剣詩舞会
荒崎春奈 (神奈川)